

# 2022年度決算委員会報告

10月6日から18日まで、昨年度（2022年度）の決算について審査する特別委員会が開かれました。2020年から決算委員会は代表制ではなく分科会制となりました。私は通常の議会では総務委員会に所属しており、決算では総務委員会が所管する事項を分科会として審議します。

設などもひつ迫しました。多くの高齢者がクラスターの発生により亡くなり、医療関係者も命にかかわる状況になったほか、市の職員も保健所への応援に駆り出されました。暮らしや雇用にも深刻な影響

が出た中で、市民の命と暮らしを守ることを最優先に、大切な税金の使い道としてふさわしいところへ使われたのか、必要な措置が講じられたのか、が問われます。問題点は以下の通りです。

## 残業ありきの職員体制

2022年度はコロナのオミクロン株による感染が広がり、医療機関をはじめ介護施設

職員定数が3223人と決まっているにもかかわらず、

現在の和歌山市の常勤職員数は2700人台となっていま

す。コロナ対策はもとより、度重なる災害への対応で残業が増えています。これは結果として市民サービスの低下をもたらすことから、余裕を持った職員体制にすることが望まれます。



朝夕の気温がグンと下がってきたと寒くなりました。先日は午後になって、みるみる暗くなってきたと思ったら雷鳴がとどろき、はげしい雨が降り、季節の変わり目を感じさせました。衣替えや布団の入れ替えをされた方も多かったことと思います。これからは紅葉が進み晩秋へと向かいます。時の過ぎるスピードが速まっているように感じるのは、やはり年齢を重ねたせいでしょうか。

2022年度もコロナ感染対策とは言えないようなマイナンバーカードの普及促進事業、移住定住戦略やそれにかかわるシティプロモーション事業、防災マップの作製などに使われていることが分かり

## 新型コロナ交付金の使い道

ました。医療や介護などの実態は保健所や福祉局が現場の声を聞き、要望を反映することは求められますが、そもそも声を上げられるシステムになっっていたのかどうか問題です。

（2面に続く）



決算特別委員会総務分科会で発言する森下さち子市議

## 高すぎる介護保険料

(1面の続き)

介護保険制度は特別会計として運営されています。2022年度は6億円以上の黒字に加え、42億円もの準備基金があります。市民に課せられる保険料の基準額は月額6600円で介護保険制度が始まった23年前と比べると2倍になっています。62の中核市の中間から年度当初で入所

で和歌山市の保険料は9

番目に高いと言われており、引き下げる努力をするべきでした。

## 保育所の待機児童

4月時点で29人、10月は112人と前年度と変わっていません。特に育児休暇をせっかく取得しても、育休明けに入れないという現状があります。したがって、0歳児から年度当初で入所できると育休をあきらめたり短縮するという声が多くあります。受け皿を増やし、待機児童を出さないような取り組みこそ求められます。

4月時点で133人と過去最高となっております。そのうち4人は2年生です。夏休みなどの長期休暇ではさらに増えて8月で175人、12月では145人と深刻です。学童保育所を早急に増やす必要がありますが、設置目標には程遠い状況です。

## 学童保育(若竹学級)でも待機児童

4月時点で133人と過去最高となっております。

そのうち4人は2年生です。夏休みなどの長期休

みで133人と過去最高となっております。夏休みなどの長期休暇ではさらに増えて8月で175人、12月では145人と深刻です。学童保育所を早急に増やす必要がありますが、設置目標には程遠い状況です。

## 緊急の申し入れ—医療関係へのコロナ対応を—

- 10月11日、市長宛てに5項目の申し入れを行い、市長、健康局長、健康推進部長と懇談を行いました。
- 5類移行前と同様に入院調整は保健所が責任を持って行うこと
- 保健所での無料検査と発熱者外来を再開すること
- 医療機関、高齢者施設における感染拡大を防ぐために患者・利用者・職員に行う検査に対して補助を行うこと
- 新型コロナウイルスに対応した医療、従事者への支援金を継続するよう県、国に求めること



申し入れ書を手渡す森下市長

無料

## 法律相談

井辺・森下さち子事務所にて

11月14日(火) 13:30~

11月27日(月) 18:00~

◆事前予約をお願いします。

市役所議員団控室  
森下さち子まで

☎ 435-1113